

令和5年度 第1回南部町教育協働みらい会議 議事録

開催日時 令和5年8月4日(金)
午後1時24分～午後2時45分

開催場所 南部町役場天萬庁舎2階 会議室

出席者 陶山町長、瀬田教育委員、板教育委員、畠教育委員、吉田教育委員
土江副町長、福田教育長

事務局 大塚総務課長、岩田教育次長、水嶋総務・学校教育課長、二宮人権・社会教育課長

書記 人権・社会教育課 大塚課長補佐

傍聴人 なし

	【1. 開会】
大塚総務課長	開会 午後1時24分
	【2. 挨拶】
陶山町長	子ども家庭庁長官との懇談で男性の価値観を共生へ変え、地域が子どもを育てる社会にしていくため、自治体がどうしていくかとの話題になった。先日訪問した朝ドラの舞台、高知県佐川町では子育て支援の一つ、おもちゃ美術館の楽しいしかけを見学することができた。大山町ではエマージョン教育を図画工作からやりたい意向。エマージョン教育は授業に日本語、英語の両方の先生がつき、同時に2か国語の指導を受けるといったもの。岡山の小学校でも取り組まれている。教育の方向を長いスパンで考えて子どもの生き方に町が関わるグローバル教育を作り出したい。意見をよろしく願います。
	【3. 意見交換】
土江副町長	1)「子育て支援について」 まず、事務局から説明をいただく。
岩田次長	資料の説明 8月7日に開催予定の少子化対策本部会の資料、第3期(令和2～4年度)事業一覧で説明。
陶山町長	少子化(結婚しない人、子どもが生まれない人)の研究をする必要がある。生まれてからは教育にお金がかかる。負担をやわらげ支援していこう。各自治体との支援合戦ともいえる。
板委員	コロナが落ち着き、活動が戻るとコロナ期より費用がかかるようになった。物価の上昇、賃金は上がらない。塾や習い事に通う子どもは増えているが、通わせられない家庭もある。公設の塾は検討できないか。学校外でのサポートもあるとよいのでは。進学奨励金についても申請者、支給対象者が限られている現状。希望者みんなに支給できるとよい。
陶山町長	子育てに何が足りないか。①若い世代の所得が伸びていない。②社会全体の構造。スウェーデンは近所やファミリーで対応しているが、日本は公共サービスに頼る。社会的意識をどう変えるか考える。③全ての子どもを切れ目なく子育て支援できているか。子育てはすばらしいもの。若い世代の所得水準をあげないと結婚できない。他町では高校生の塾を作り、地域に残ってほしいという考えが伝わり、成果も出ている。太い幹の中で教育の方針を立て、実行するべきではないか。全て公共に頼る教育体制がいいのだろうか。
瀬田委員	保護者の立場から教育委員会の事業は充実した支援と考えており、ありがたい。一方で子育て支援が十分かという疑問もある。5「子育て親育ち！成長と学びのファイル作成」、9「産後ケア事業」、10「不妊治療費助成事業」など十分に事業費がとれていないのでは。町で安心して子育てができるように、必要なら充実させるべき。
陶山町長	産後ケアなど特別な人が受けると思われているのか実績が少ない。それは行政職員の意

	識ではないか。制度があっても使えないのはおかしいし、充実した子育て環境であるとは言えない。
福田教育長	様々な事業は町がネウボラをはじめた時に増えた。ネウボラが日本に合うものでなかったなら見直しのタイミングである。支援が必要な人に支援が届いているかの検証、評価は必要である。南部町は様々な施策で先陣を切ったが、現在は後追いの町がお金をつぎ込みインパクトのある施策を打ち出している。必要なことは何か。スクラップも検討するべきではないか。
土江副町長	令和5年度の就学前アンケート122世帯によると「子育て施策は総合的に満足度は何%か」という問いに「70%以上」との答えが6割を占めており、評価はされている。産後ケアは30%が満足としているが、6割は制度を利用していないとの結果であった。
吉田委員	若い世代の結婚が進まないのは、女性・男性の格差によるものが多い。仕事において結婚という選択にならない。女性が家ですることの多さや「ちゃんとしなくては」という概念はまだある。保育園に誰でも通えるようにならないか。保育園に行けないことでつながりができない人が、仲間づくりに参加できると、親の気持ちの負担が減る。保小中高と切れ目ない支援は町の特徴になりそう。支援の必要な人に適切に届け、町は手立てをしていると保護者が感じられる施策がポイント。ポイントが定めれば他にない特色になる。
福田教育長	会見第二小学校のニーズがあるのもそこではないか。大きい学校は支援学級もいっぱい。支援の必要な子の割合は増えている。二小の規模であれば、支援の必要な子に必要な支援が届くのではと考えられているのではないか。
土江副町長	「誰でも保育園」という国のモデル事業で誰でも通園できる制度があり、国は拡充する方針。保育園の定員・待機児童を見て受け入れるようだが、定員の空きがあるのは3歳以上でニーズがあるのは3歳未満児である。
畠委員	子育て最中の子を見ても、お母さんが忙しい。フルタイムで働き、通勤、家事と本当に忙しい。手伝えることがないかといつも考えている。お父さんは早く出かけ、夜遅い。良い制度がないかと考えるが今も昔も変わらない。この状態なら、子どもも少なくないかとなってくる。家事ヘルパーを頼んだり、夕方のこども食堂などの制度もいいなと思う。
福田教育長	介護などの負担軽減はできたが、子どもについては進んでいない。子どものことは親に一義的責任がある。時短勤務・フル勤務に限らず、休暇が思うようにとれないといけない。負担を分散する待避所みたいなところも必要。
土江副町長	休みの日に夫が子どもに何時間関わっているかで、2、3人目の子どもがほしいかどうか違ってくると言われる。ワンオペ育児をやめないと子どもは増えない。「残業がある」「休めない」というのは社会にとってマイナスなのだという意識改革が必要。
土江副町長	2)「南部町の教育に関する大綱について」
岩田次長	資料の説明 教育振興基本計画に合わせ、大綱を変更予定。第3章は変更しない、第4章は若干変更。
土江副町長	人材育成の共通テーマとなっている地域をつなぐ人材、どんな人材を育成するか。
瀬田委員	「心豊かな・・・」漠然としていてわからない。根底に子どもも大人でも楽しいと思えるような教育。一人ひとりが楽しい生活を目指すのが大事。関係性が生まれ、相手も大事にする。
板委員	基本的に3本の骨組みでいいと思う。自分が出会う子どもはいい意味で切り替えが早い印象。歯を食いしばることなく、切り替えが早い。困難な課題に負けずにチャレンジし続けることも、もう少しほしいと感じる場面がある。うまいかなくても、がんばってやっていくことがイメージできるといい。学力に合わせて体力は重要。体を動かす場を学校だけでなく家庭教育の面

	でも休まずにがんばれる体づくりをする必要がある。
畠委員	子どもが地域に関わるのが少ない。地域の中で育てられた子どもという体験があるといい。
吉田委員	違いが認め合え、さらに合わさって、いいもの・いいまちづくりができる。そんな考えが子ども達についてきたらいい。自分の考えを発することができる力、考えを言えないといけない。言える力を育てたらいい。
陶山町長	1ページの南部町の教育の理念にある「自立(律)」は本当にこうなのか。高校生・大人の「自立」は、自分で人生を切り拓く意味でも、他者とのネットワークを持つという点でも、「独り立ちする」ということではないのでは。今の人口が20年後には7,000人になり、5,000人になる。集落はなくなり、学校教育ができなくなる。簡単ではないが、若者の生き方を決めるのは企業ではないか。夫婦のあり方などにも影響する。企業の発展は地域の存亡に関わってくる。安心して子育てできる環境を作り出す必要がある。
土江副町長	最後に教育長から総括をお願いする。
	【4. 挨拶(総括)】
福田教育長	子育て支援は様々ある一方、どこに焦点を当てるかよく考える必要がある。子育てしやすい南部町を限られたなかでやっていく。国も今までとは違うやり方を進めており、色々なことが変わっていくべき。教育大綱は毎年変わっていくもの。今回は教育振興基本計画に合わせていた。年度末に向けて大綱の見直し作業を行う。エマージョン教育については言葉の壁でつぶれないように、英語で頭の中で英語による組み立てができるようになっていくもの。グローバル・グローバル教育はふるさとを大事にすることはもちろん、羽ばたいて帰ってこれるように、「教育のこれから」を考えることをしないとけない。
	【5. 閉会】
	閉会 午後2時45分